

< 組み立て説明書 >

▶ 内容の確認 次のパーツがそろっていることを確認してください。

手帳キット	別に用意していただくもの	あると便利なもの
革 本紙 ポケット かがり糸	カッター	爪楊枝4本 木工ボンド

組み立て道具セット	組み立て用の道具類は市販品を利用できます。
カット用定規 A・B 輪ゴム 針 糸通し 目玉クリップ2個	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カット用定規・・・定規や厚紙を2枚用意します（できれば異なる幅のもの）。カット途中で定規がずれると切り口が段になりますので慎重に作業してください。また、キズがついてもかまわないものをご使用ください。</li> <li>・輪ゴム・・・折径120mm、切幅18mmのゴムバンドなど</li> <li>・針・・・糸を通す穴が大きく先端が鋭利でないもの（クロスステッチ用針24番など）</li> <li>・糸通し・・・手芸店などにある普通の糸通し</li> <li>・目玉クリップ・・・口幅39～51mmのもの</li> </ul>

▶ 組み立ては次の4つの手順でおこないます。

- ① かがり糸を針に通す
- ② 革、ポケット、本紙を綴じる
- ③ 半分に折る
- ④ 本紙の端を切りそろえる

① かがり糸を針に通す

▶ 糸の先端の7～8cmの部分の3本の太い糸と細い糸をほぐしてばらばらにします。（かがり糸は、3本の太い糸とそのまわりに巻かれた細い糸でできています）⇒図1

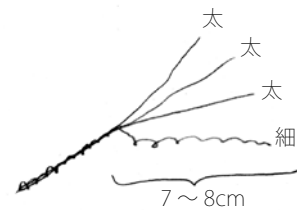
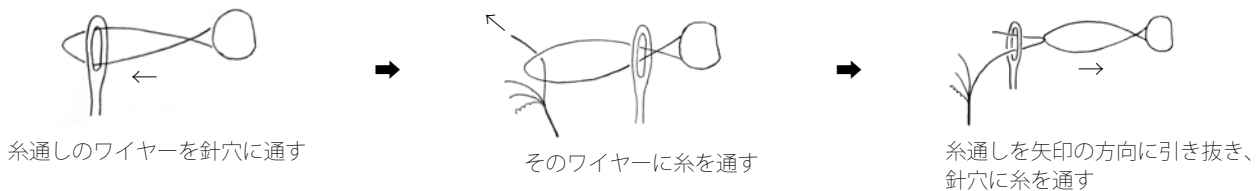


図1

▶ 次に、ほぐした4本の糸を、糸通しで1本ずつ針に通します。

糸通しの使い方



▶ すべての糸が通ったら、ほぐした部分の中ほどを折り返して針から抜けないようにします。⇒図2

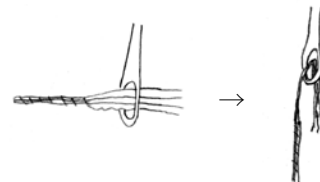


図2

② 革、ポケット、本紙を綴じる

▶ 綴じる作業は次の3つのステップにわけて進めると、作業もしやすく仕上がりもきれいになります。

- ②-1 革、ポケット、本紙をゆるく綴じる。
- ②-2 かがり糸を軽くしめる。
- ②-3 かがり糸を強くしめる。

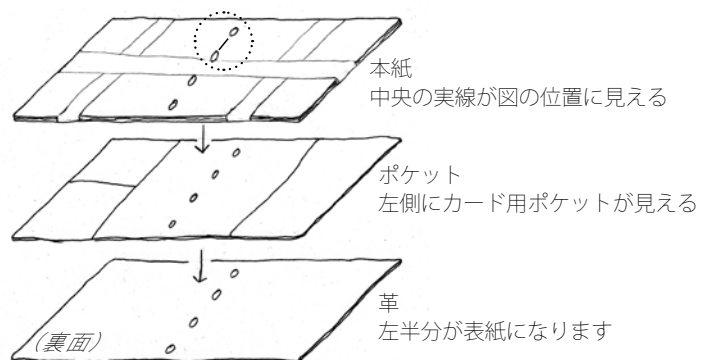


図3

②-1 革、ポケット、本紙をゆるく綴じる

▶本紙を束ねてある3枚の帯は付けたままで作業を進めます。各パーツの向きに注意しながら、下から革、ポケット、本紙の順に重ねます。(⇒図3) 重ねたらパーツの4ヶ所の穴に爪楊枝を挿しておくのと穴の位置がうまくそろいます。次に、3つのパーツがずれないようにクリップで両サイドを固定します。その際、クリップと革の間にはハガキ程の厚さの紙をはさみクリップの跡が残らないようにします。クリップで固定したら爪楊枝は取り外します。⇒図4

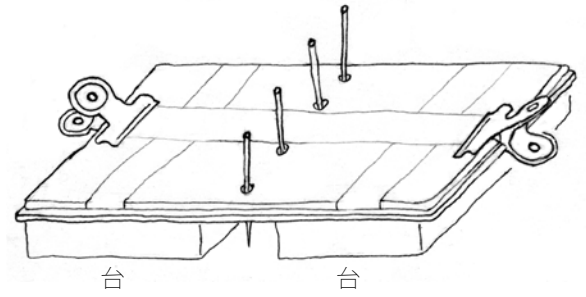


図4

▶綴じる作業は、革の1番上の外側の穴からスタートします。この穴に針を通したら、どんどん引っ張って5~6cmの糸を革の外側に残します。この部分を「しっぽ」と呼ぶことにします。⇒図5

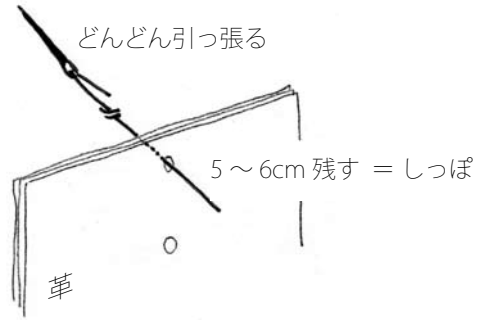


図5

▶以後、右図の番号順に綴じていきます。⇒図6  
綴じ終わったらクリップをはずします。

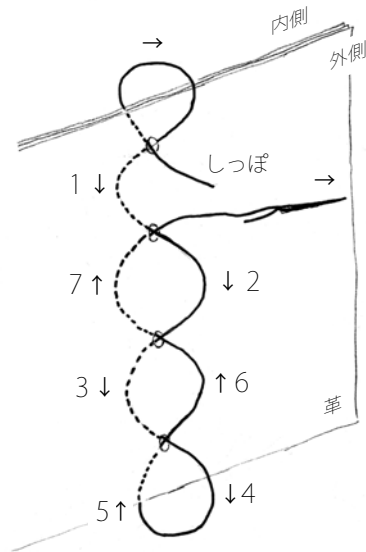


図6

注意！  
すでに糸が通っている穴に針を通す時は、その糸を縫ってしまわないように注意してください。

▶次に、ポケットと革の間から「しっぽ」を引っ張って抜き、革とポケットの間に移動します。⇒図7

▶上から2番目の革の穴から出ている糸を1番上の穴に通します。ただし、ポケットと本紙には通しません。革のみを通してポケットと革の間から出しておきます。(後から「しっぽ」とこの糸を革とポケットの間で結びます) ⇒図7

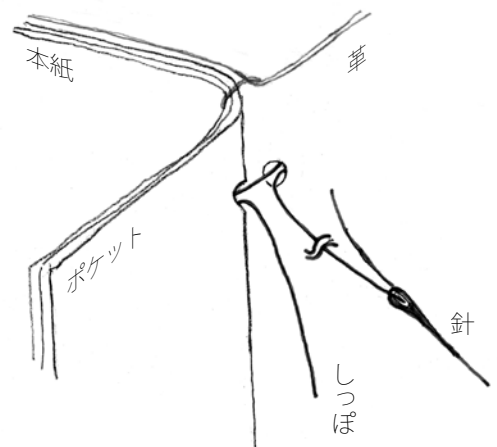


図7

▶以上で、ゆるく綴じる作業の完了です。

⇒図8(糸の通り道 / 断面の様子)

②-2 かがり糸を軽くしめる

▶糸を軽くしめます。しめる順番は糸を通した順番と同じですが、図8の3からスタートします。(1を引くとしっぽが抜けてしまいます)

3 → 4 → … 10 → 11 の順に図8の矢印の方向へ糸を引き全体を軽くしめます。

注意！

糸をしめる時は、革とポケットと本紙がきちんと重なっていることを確認しましょう。本紙の紙がずれた時は、上下左右から指でトントンたたいてズレを直しましょう。

「②-3 かがり糸を強くしめる」に進むと、パーツのずれを直すことはできないので、しっかり確認しておきましょう。

②-3 かがり糸を強くしめる

▶②-2と同じ要領で糸をしめます。あまり強くしめる必要はありません。

「ギュッ」という感じの手ごたえが目安です。「ギューツ」では強すぎます。

▶糸をしめ終えたら、「しっぽ」ともう一方の糸を穴のところで固結びします。この時、結び目に木工ボンドを一滴付けておくと解けにくくなります。「しっぽ」は5mmほど残してカットします。⇒図9

▶残りの糸の処理

残りの糸は「しおりひも」として利用することができます。「しおりひも」が不要の場合は、残りの糸も5mmほど残してカットします。

▶しおりひもの作り方

図10のように手帳の一番上に見えているかがり糸をくると一巻きすれば出来上がりです。標準的な長さは、1ページの対角線の長さ +  $a$  です。

▶ここで本紙に巻いてある帯を取り外します。

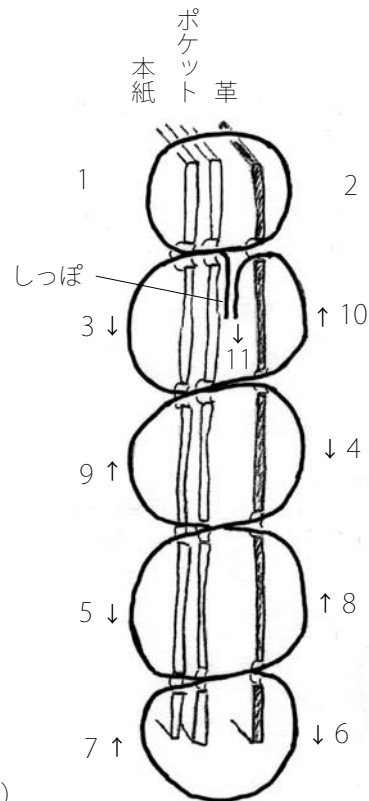


図8(断面図)

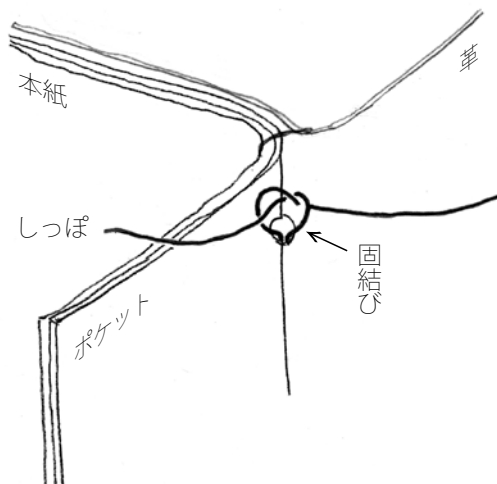


図9

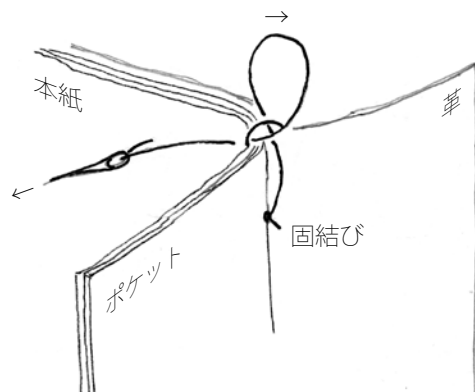


図10

### ③半分に折る

▶糸のラインを折り目にして半分に折ります。まず、上端と下端、次に中央の順で折り、さらに、ゆがみやずれがないことを確認しながら全体にまんべんなく折り目をつけます。⇒図 11,12

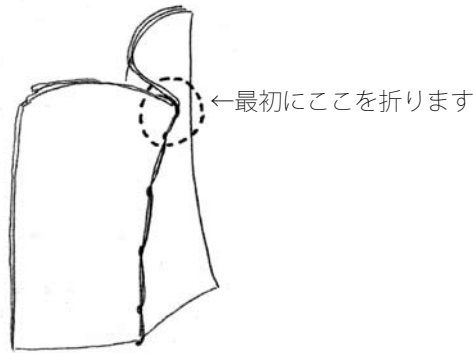


図 10

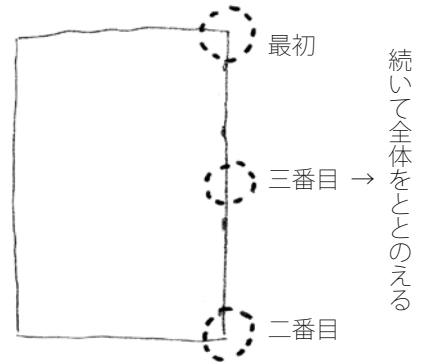


図 12

### ④本紙の端を切りそろえる

▶手帳の背に近いところに輪ゴムをかけ、背の形がくずれないように固定します。⇒図 13

▶最後のページが見えるように革とポケットをめくります。このとき、本紙の上側が手前にきています。このページには、カットラインの目安になる三角形の目印が2つあります。

▶定規 A と B を図 14 のようにセットし、本紙すべてをはさみます。定規 A を三角形の左側の頂点にあわせ、この線に沿って本紙の端ををカッターで切りそろえます。⇒図 14,15

注意！

切る前に、輪ゴムで固定した背の部分に形くずれがないか再度確認します。

▶切るときは、左手(の人差し指と親指)で定規 A をしっかり押さえて固定します。途中で定規 A の位置がずれると切り口に段ができるので、切り終わるまで位置がずれないように注意してください。

▶一度ですべての本紙を切ることはできません。1回のカットで2~3枚切るくらいの力加減で何回にも分けて丁寧に切ってください。

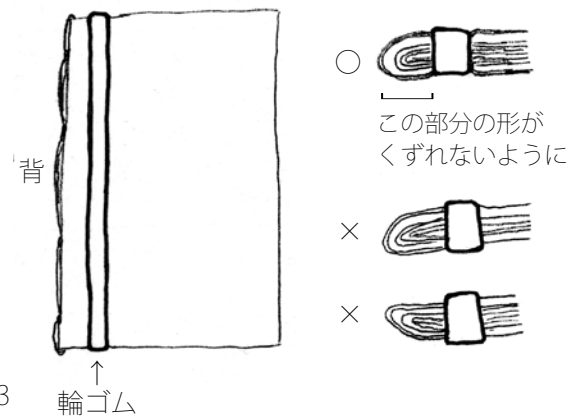


図 13

輪ゴム

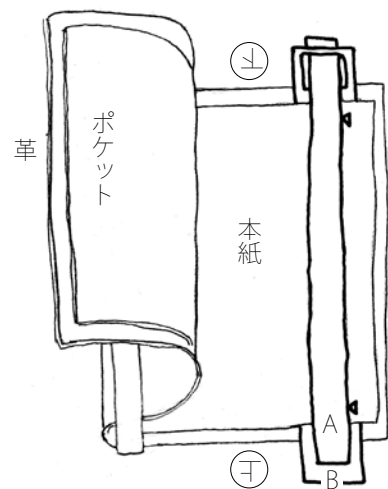


図 14

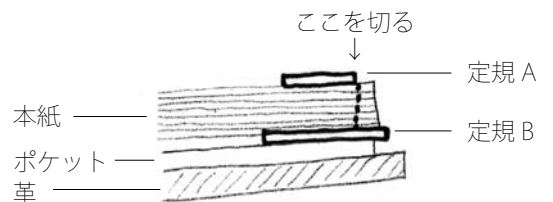


図 15